

平成22年6月16日

平成二十二年第二回都議会定例会を終わって（談話）

都議会自由民主党幹事長 川井 しげお

今定例会は、本日終了いたしました。

新政権は、迷走、逆走、そして暴走を続けていましたが、鳩山首相は8ヶ月余りの短命で退陣しました。国家を背負うはずの政権が「政治と金」のスキャンダル、沖縄普天間問題、口蹄疫問題など初動の遅さや危機管理のなさで、国民を顧みることなく混乱、混迷に陥れ失望させました。マニフェスト至上主義に拘泥され、高速道路の無料化、子ども手当に代表される放漫極まりない政策は、国民に国家の将来へまた、我々と次世代を担う人達に多くの負担をもたらし強い不安を与えています。新たに誕生した民主党菅政権も閣僚の中に「金」の問題が露見し始めるなど、今までの政権以上の政策を持って国家を運営することは期待できず、失望に耐えません。

都議会民主党においてもこの現象はしかりで、その現れは、今定例会まで継続審議となっている「東京都青少年の健全な育成に関する条例の一部を改正する条例」について、「改正案に対し知事の自覚がない」とか「改正案の言葉が理解できない」という理由で開会直前、知事に撤回を求めたことは議会人として許すことができません。子供の健全な育成のため一刻も早くその現状を改善していくために、知事から提案され議長が受け取ったもので、議会が責任を持って議論を尽くし賛否の議決をすべきものです。第一定例会当時から「条例改正案の理念を共有する」という民主党の姿勢を、議会人として真摯に受止め議論を続けてきました。

わが党は、この改正案に賛成の立場から、条文をよりわかりやすくすること、及び本制度のあり方を検証するため3年経過後に検討の上、必要な措置を講ずるなどを内容とする修正案を、公明党の皆さんとともに作成し各会派の良識ある賛同を呼びかけました。その間、お子さんを持つ親御さんを中心とした皆さんから、早期成立を求め四万五千人近い署名が議長あてに提出されました。次世代を担う子供たちを守るため、都民の付託を受けた都議会として、良識ある議決をすべきとする必死の努力も実りませんでした。この度の民主党の横暴は国政と何ら変わるところがなく、依然として都議会一党としての役割と責任を持っていません。他の反対会派も都民を顧みない都民無視都民不在の姿勢は、都民を失望させるものです。

我が党は、民主党政権が我が国存立の礎石に亀裂を入れ、崩壊させようとしている外国人への地方参政権付与、また、家族の絆という日本社会の土台を崩壊しようとする夫婦別姓についても極めて強い危機感を持っています。これらの制度化には、あらゆる機会を捉えて国民の皆さん全員とともに、断固反対していかなければなりません。

2007年に誕生した東京マラソンは、大人気の大会となりました。東京マラソンの法人化は、マラソン大会のみならず年間を通じて多彩な事業へ取り組むことにより東京の観光振興や地域振興にこれからも大きく寄与していきます。若者から高齢者まで多くの都民がスポーツを通して肉体と精神を鍛え、豊かな人間性を作り上げていく事を推進していくため、都に新組織として設置するスポーツ振興局も歓迎するものです。これらの団体・組織が共に連携していくことがスポーツを楽しめる環境や健康づくりを高めていくものと確信するものです。

我が党は、昨年「少子・高齢化政策推進本部」を立ち上げ、保育・医療・働き方・教育・住宅・地域支援など総合的な政策提言を行い実現を図ってきました。この4月1日には認証保育所の定員が1,680人分もの増加となりました。待機児童の解消や都型学童クラブの拡大に力を入れていくことにより、子供手当のような現金給付に頼るのではなく、子育てと仕事を両立させ、しっかりと家計収入を維持できる働き方を「東京モデル事業」として取り組み、普及発展させていきます。

今定例会で都議会議長が辞任し、本日、新議長が就任しました。前議長と同じく民主党からの就任です。新議長は、これまでの議会運営を人ごとせず猛省し、都民のため全力で良識ある議会運営に当たることを申し添えておきます。

最後に、7月には、参議院議員選挙が行われます。都民の皆様には、現民主党政権の美辞麗句に惑わされることなく、日本の将来をしっかりと見据えた上であやまちのない選択をお願いしたいと思います。我が党は、都民の目線に立った政策を進めてまいります。

以上